

第157回 関西大学メディア懇談会 実施概要

1 日 時 2026年1月28日(水) 15:00 ~ 17:00

2 場 所 梅田キャンパス8階ホールおよびオンライン (Zoomウェビナー)

3 内 容

(1) 研究発表 (15:05~15:25)

発表者: 姜 民護 (人間健康学部准教授)

テーマ: 家族ストレス理論の批判的継承と再構築

—新規資源の肯定的認知を可能とするソーシャルワーク介入モデルの構築—

別紙1

(2) KU トピックス (15:25~16:20)

● 2026年度入学試験志願者状況について

別紙2

● フラッグシップ研究プログラムの新設について

P1~2、別紙3

● ビジネスデータサイエンス学部とコープさっぽろの連携協定について

別紙4

● 商学部西岡ゼミ、社会学部池内ゼミによる産学連携商品の開発・販売について

別紙5

● 国際化に向けた取り組みについて

P3~5、別紙6

～Osaka Social Impact Project (OSIP) の概要と進捗～

● 大阪・関西万博のレガシー継承について

P6~9、別紙7

・万博レガシーの次世代への継承

発表者: 岡田 朋之 (総合情報学部教授)

・大阪・関西万博にて設置した象印マホービンの「マイボトル洗浄機」を関西大学へ移設

・KU NEXPO の始動 等

● 関西大学スマートフォン用アプリの構想について

別紙8

(その他配布物)

・『関大万博通信(レガシー編)』

会場置き配布

・関西大学ニュースレター『Reed』第82号、83号

会場置き配布

・關杯コーラおよび關杯ビール

・メディア懇談会に関するアンケート

4 大学関係・出席者(予定)

高橋智幸学長、北原聰副学長、中尾悠利子学長補佐、姜民護准教授(人間健康学部)、

脇田貴文入試センター所長、岩崎波留奈入試広報グループ長、

岡田朋之教授(総合情報学部)、猪頭司宵(商学部3年次生)、中島剛大(社会学部3年次生)

植田光雄学長室長、井村誠総合企画室長、玉村まゆか広報課長ほか

以 上

【次回のメディア懇談(第158回)について】

2026年4月以降の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

家族ストレス理論の批判的継承と再構築 —新規資源の肯定的認知を可能とするソーシャルワーク介入モデルの構築—

人間健康学部 准教授 姜 民護

【研究概要】

人は、困難な状況に直面したとき、支援制度や人とのつながりといった「資源」に必ずしも素直に助けを見いだせるとは限らない。同じ支援であっても、それを「自分にとって意味のあるもの」として受け取れるかどうかは、人や状況によって大きく異なる。この「支援をどのように認識し、どのように意味づけるのか」という点に着目し、人々が困難を乗り越えていく過程を理論的・実証的に明らかにする研究を行っている。

本研究では、家族ストレス理論の一つである H.L. マッカバンの「二重 ABC-X モデル (Double ABC-X Model)」を理論的基盤とし、従来十分に検討されてこなかった「新規資源の肯定的認知」に焦点を当てる。新規資源とは、新たに導入される支援制度やサービス、人間関係、支援者との出会いなどを指し、これらをどのように受け止め、活用できるかが、その後の生活や回復過程に大きな影響を与える。

本研究の目的は、こうした新規資源が人々にとって「意味のある支え」として立ち上がるために、ソーシャルワークがどのような介入を行いうるのかを明らかにし、理論として再構築することである。文献研究を通じて理論的整理を行うとともに、そこから導き出されたモデルを、調査データなどの実証的な分析を通じて検討する。研究対象は、これまで専門としてきたこども家庭福祉領域に限らず、こども、障がい者、高齢者など多様な分野へと広げ、理論の一般化可能性を探求する。

本研究は、新しい制度や支援を次々に生み出すことを目的とするものではない。むしろ、すでに存在している支援や関係性を、人々が「自分の力として取り入れられるもの」として再発見できるような支援のあり方を提示する点に特徴がある。誰もが「納得できる支援」を見つけ、主体的に生きていける社会の実現に向けて、理論と実践をつなぐ架け橋となることを目指すものである。

【プロフィール】

1986 年韓国生まれ。江南大学校社会福祉学部社会事業学科を卒業後、同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士前期課程に進学。2017 年 3 月、同研究科博士後期課程を修了し、博士（社会福祉学）を取得した。2017 年 4 月より同志社大学大学院社会学研究科外国人留学生助手、2020 年 4 月より同志社大学社会学部助教を経て、2025 年 4 月より関西大学人間健康学部准教授に着任。

専門はこども家庭福祉学（社会的養護・家族支援）である。こども家庭福祉を主たる研究フィールドとし、そこに内在する諸社会課題を「家族社会学」と「ソーシャルワーク」という二つの視点から研究している。具体的には、ひとり親家庭のこども、要保護児童、性的マイノリティのこどもなどを取り巻く状況を、家族構造や関係性、社会的規範といった観点から家族社会学的に捉え直すとともに、当事者のウェルビーイング向上に向けて、環境にどのような介入が可能かをソーシャルワークの視点から検討している。

以上